

最近、マンガやテレビばかりに夢中になって本を読まないという悩み
の声をよく聞くことがあります。しかし、幼児期から漢字に親しんだ子
もはその反対で、タメになる本をよく読みます。むしろマンガやテレビよ
りも好むようです。というのは本(書物)は好奇心を満たすことに十分な
楽しい中身をもっているからです。

にもかかわらず、子どもが本を読まない理由は二つあります。一つは
書物の面白さを知らない、もう一つは知ってはいるが読む力(漢字力)
がないかのどちらかです。

前者の場合は、親が本を読んで聞かせることが一番大切でしょう。毎
日本を読んでやるのです。子どもは繰り返しが好きですから、同じ本を
何度も読んでやります。

毎日同じ話を聞いていると、子どもは話の内容をすっかり覚え、読み
間違いを指摘したりするようになります。そうして、自分でも大人のよう
に読んでみたくになります。

私の観察では、ひらがなばかりの本は幼児には読みにくいようです。
自分で読もうという意欲が薄れて、いつも親に読んでもらってしまっ
ています。これではいつまでたっても自分から読書する気にはなりませ

ん。

食べることで成長するからといって「ハイ、口を開けて」と、栄養のあ
るものを次から次へと与えてやっているようなものです。こんなことをし
ていたら、自分で食べる子にはなりません。

できる限り漢字の多い本を選んでやるようにしましょう。

ポイント:幼児期に漢字教育をすることは理解できても、やり方を誤解
している人が多いのです。詰め込み式で、しかも漢字を書く練習をさせ
たり、作文まで書かせたりしている場合もあります。たしかに書いたもの
も大人目から見ても結構素晴らしい。でも子どものうちは吸収するこ
とだけです。ものを書かせ発表したりする能力は幼児のうちは伸ばす
必要はないのです。